

令和8年8月
関西広域連合議会定例会

報 告 書

令和8年9月11日

関西広域連合議員 原 徹 臣
同 井 下 泰 憲

議 事 日 程

令和 8 年 8 月 27 日 (木)

午後 1 時 00 分開議

第 1 諸般の報告

第 2 会議録署名議員の指名

第 3 会期の決定

第 4 第 11 号議案及び第 12 号議案（広域連合長提案説明）

第 5 一般質問

第 6 第 12 号議案（討論・採決）

第 7 第 11 号議案（総務常任委員会付託、閉会中の継続審査に付する件）

第11号議案

令和7年度関西広域連合一般会計歳入歳出決算認定の件

令和7年度関西広域連合一般会計歳入歳出決算は、別冊令和7年度関西広域連合歳入歳出決算書のとおりであるから、地方自治法（昭和22年法律第67号）第292条において準用する同法第233条第3項の規定により、議会の認定に付する。

令和8年8月27日提出

関西広域連合広域連合長 三日月 大造

第12号議案

令和8年度関西広域連合一般会計補正予算（第2号）の件

令和8年度関西広域連合一般会計補正予算（第2号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）

第1条 歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ451,401千円を増額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ3,333,258千円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は「第1表 歳入歳出予算補正」による。

令和8年8月27日提出

関西広域連合広域連合長 三日月 大造

第1表 歳入歳出予算補正

歳 入

款	項	補正前の額	補 正 額	計
1 分担金及び負担金		千円 1,629,959	千円 △170,901	千円 1,459,058
	1 負 担 金	1,629,959	△170,901	1,459,058
3 国庫支出金		904,684	6,990	911,674
	1 国庫補助金	904,684	6,990	911,674
6 繰入金		75,838	283,273	359,111
	1 基金繰入金	75,838	283,273	359,111
7 繰越金		1	332,039	332,040
	1 繰越金	1	332,039	332,040
歳 入 合 計		2,881,857	451,401	3,333,258

歳 出

款	項	補正前の額	補 正 額	計
2 総務費		427,807	166,021	593,828
	1 企画管理費	427,289	166,021	593,310
4 広域観光・文化・スポーツ振興費		106,454	6,990	113,444
	1 広域観光・文化振興費	85,443	6,990	92,433
6 広域医療費		1,795,247	161,138	1,956,385
	1 広域医療費	1,795,247	161,138	1,956,385
10 関西パビリオン設置運営費		0	117,252	117,252
	1 関西パビリオン設置運営費	0	117,252	117,252
歳 出 合 計		2,881,857	451,401	3,333,258

令和8年8月定例会 質問項目及び答弁者一覧

令和8年8月20日時点

	府県市	質問者	質問時間	質 問 項 目
1	奈良県	関本 真樹 議員 (一括)	16分	1 広域観光の推進について
				2 広域連携による行財政改革の推進について
				3 関西広域連合としての目標設定について
2	徳島県	井下 泰憲 議員 (分割)	12分	1 第二国土軸及び紀淡海峡ルート、四国新幹線などの構想について
				(1) 将来像について
				(2) 国への提言や関係自治体との連携強化について
				2 食の振興や海外展開・食育を通じた広域連携について
				(1) 食の振興や海外展開について
3	鳥取県	鳥羽 喜一 議員 (一問一答)	8分	(2) 食育を通じた広域連携について
				1 関西広域連合管内における新幹線路線の整備促進について
4	大阪府	大橋 章夫 議員 (一問一答)	10分	2 副首都法案を踏まえた関西広域連合の今後の取組について
				1 関西広域連合管内のドクターヘリについて
5	大阪府	山本 真吾 議員 (一問一答)	10分	(1) ドクターヘリのカバー体制について
				(2) ドクターヘリの運行に関する課題について
				(3) 令和9年度のドクターヘリの運行体制について
				2 養殖カキの被害対応について
				3 防災庁の地方拠点の誘致について
6	大阪市	岡田 妥知 議員 (一問一答)	12分	1 大阪・関西万博のレガシーを生かした関西の魅力向上について
				2 空飛ぶクルマの実装化に向けた取組について
				3 広域観光の取組について
				1 防災庁設置法施行に伴う関西広域連合の広域防災体制強化と副首都機能への対応について
7	堺市	的場 慎一 議員 (一問一答)	8分	(1) 防災庁設置に伴う関西広域連合の広域防災力強化に向けた取組について
				(2) 防災局誘致と首都機能バックアップに向けた取組について
				2 広域環境保全の取組における地球温暖化対策について
8	兵庫県	大豊 康臣 議員 (分割)	10分	1 水道資材の標準化による広域防災力の向上について
				1 関西広域連合の輸出促進の役割について
				(1) 「関西（KANSAI）」としての魅力発信と商談・マッチングの機会創出について
				(2) 国機関・関係団体との広域連携（プラットフォームの活用）について
				(3) 「オール関西」での輸出促進に向けた今後の取組について
9	兵庫県	迎山 志保 議員 (分割)	10分	2 関西が誇る世界遺産の相互連携と文化資源を活かした「広域観光ルート」の推進について
				1 「大都市の独立」と「逆分権」が同時進行する中での関西広域連合の役割について
				(1) 特別市構想に伴う関西独自の「財政影響試算」の実施について
				(2) 「非平時」における指揮命令権の関西広域連合への一元化について
				2 臓器移植医療の推進について
10	神戸市	高橋 としえ 議員 (一問一答)	8分	(1) 院内コーディネーターの広域共同育成と相互派遣システムの構築について
				(2) 広報・啓発のさらなる展開について
				1 関西広域連合として取り組む分野事務の重点化について
				(1) 分野事務の重点化に対する見解について
				(2) 事務・事業のスクラップについて
11	京都府	増田 大輔 議員 (分割)	16分	2 万博で披露された最先端技術の実装化・産業化について
				(1) 現在の取組状況及び今後の展望について
				(2) クラスター間の連携に向けた取組について
				1 淀川舟運の活用による観光の取組への支援について
				2 府県をまたぐ観光施策について
12	京都市	宇佐美 賢一 議員 (一問一答)	8分	(1) 周遊観光のコンテンツについて
				(2) 魅力発信や広報の手段について
				3 災害での舟運の活用について
				4 淀川河川の治水対策について
				(1) 府県をまたぐ治水対策について
13	滋賀県	桐田 真人 議員 (一問一答)	16分	(2) 堤防の整備について
				1 北陸新幹線の残土処分地について
14	和歌山県	岩永 淳志 議員 (一問一答)	16分	2 北陸新幹線の敦賀大阪間延伸に係る地元自治体負担の軽減・極小化について
				3 核融合炉プラントの関西圏への誘致について
				1 「トクリュウ」に対する広域的な対策について
15	大阪府	大橋 章夫 議員 (一問一答)	10分	2 スタートアップ支援について
				1 第6期広域計画の実効性と推進力の確保について
				(1) 新たな広域自治・行政のあり方研究会のとりまとめ結果の第6期広域計画への反映について
16	大阪府	大橋 章夫 議員 (一問一答)	10分	(2) 関西広域連合主導の行政デジタル化について
				(3) 構成府県市選出国会議員との意見交換について

本県選出議員の質問概要

井下 泰憲 議員

1 第二国土軸及び紀淡海峡ルート、四国新幹線などの構想について

(1) 将来像について

(2) 国への提言や関係自治体との連携強化について

(質問要旨)

我が国の経済活動や物流、人流の多くは、東海道・山陽新幹線や名神・新名神高速道路など、太平洋ベルト地帯に集中している。この交通ネットワークは、日本の高度経済成長を支えてきた一方で、一つの国土軸への依存という大きな課題も抱えている。

本年策定された新たな関西広域地方計画においても、人口減少や巨大災害への対応、広域交通ネットワークの強化が重要課題として位置付けられている。近い将来、高い確率で発生が懸念される南海トラフ巨大地震では、東海道・山陽ルートに甚大な被害が生じれば、日本経済全体に計り知れない影響を及ぼすことが危惧されている。

だからこそ今、必要なのは、一つの交通軸に依存しない「多軸型国土」の形成である。実際、これまで国の国土政策でも、多軸型国土構造の形成や西日本国土軸の考え方が示されてきた。

私は、未来を担う子どもたちにも分かりやすく伝えるため、この新たな軸として、関西から紀淡海峡を渡り、四国を横断し、豊予海峡を経て九州・大分へ至るルートを、「南海道新幹線構想」と名付け、提唱したいと考えている。この構想は、単に新幹線を一本整備するという話ではなく、関西空港、神戸空港、阪神港、四国、九州を一体的につなぎ、高速鉄道、高規格道路、物流、港湾、空港、さらにはデジタル通信網まで含めた、新たな国土軸を形成する壮大な国家プロジェクトである。現在、和歌山県を事務局として、大阪府、兵庫県、四国四県、大分県、宮崎県などが参画する「関空・紀淡・四国高速交通インフラ期成協議会」では、紀淡海峡ルート、四国新幹線、第二国土軸の実現に向けた活動が進められている。

また、大分市の調査では、豊予海峡ルートを含めた四国新幹線・東九州新幹線の整備が、日本全体の GDP や税収、沿線地域の GRP や人口に与える効果について分析が進められており、この構想は単なる夢物語ではなく、具体的な政策研究の段階に入っている。さらに、このルートが実現すれば、リダンダンシーや防災・減災だけではなく、関西から四国、九州への観光ルートが形成され、インバウンドの周遊促進、農林水産物の輸送時間短縮、企業立地の促進、若者の雇用創出、地方への投資拡大など、多方面への経済波及効果が期待される。

人口減少が進む地域にとって必要なのは、「守り」の政策だけではなく、失われた 30 年を取り戻すべく新たな人の流れと産業を生み出す「攻め」の国家プロジェクトである。その意味で、これら第二国土軸構想の実現は、地方創生ひいては日本創生そのものの政策であると考えている。

(1) 将来像について

関西広域連合は、第二国土軸及び紀淡海峡ルート、四国新幹線などの構想について、どのような将来像を描いているのか。

(2) 国への提言や関係自治体との連携強化について

関西・四国・九州が一体となった広域経済圏の形成を目指し、国への提言や関係自治体との連携をさらに強化していく考えはあるのか。東海道・山陽道に次ぐ新たな国土軸として、関西・西日本全体を力強く結び、日本の経済の成長と安全を支える国家プロジェクトへとスピード感を持って育てていくべきであると考えているが、所見を伺いたい。

(答弁要旨)

○広域連合長（三日月 大造）

紀淡海峡ルートや四国新幹線の整備は、新たな国土軸として、国全体のリダンダンシーの確保はもとより、関西だけではなく、西日本の発展、ひいては日本全体の発展につながるものであると考えている。

関西広域連合では、平成 25 年に、「広域交通インフラの基本的な考え方」を定め、紀淡海峡ルートや四国新幹線を含む、関西大環状道路と放射状道路及び鉄道網等の形成により、関西都市圏の拡充を掲げており、国に対しては、関西大環状道路の早期整備や四国新幹線の整備計画への格上げなどを継続的に要望しているところ。

また、議員お示しの「関空・紀淡・四国高速交通インフラ期成協議会」においても、国に対し、紀淡海峡ルートや四国新幹線の整備実現に向けた提言等がなされていることは承知している。関西広域連合議会でも、議員の皆様から御提案いただき、紀淡海峡ルートの視察を先般実施し、その距離的な近さについても実感したところ。

そうした中、先般、国土交通省が、基本計画路線に係るケーススタディについて、四国の新幹線を調査対象路線とする公示を開始したところであり、整備計画路線への格上げに向け、前進したものと認識している。

引き続き、国の動向も注視しながら、必要に応じて、関係自治体との連携を深め、広域交通ネットワークの形成に向けて、国に対し、働きかけてまいりたい。

本県選出議員の質問概要

井下 泰憲 議員

2 食の振興や海外展開・食育を通じた広域連携について

(1) 食の振興や海外展開について

(2) 食育を通じた広域連携について

(質問要旨)

関西広域連合を形成する各府県には、世界に誇れる食文化が数多く存在している。関西広域連合は、面積約3万5千平方キロメートル、外国人延べ宿泊者数は4,300万人泊を超える日本有数の広域経済圏であり、そのポテンシャルを考えれば、「食」は観光や文化にとどまらず、地域経済を牽引する大きな成長戦略となり得る。

そして、その可能性を世界へ発信したのが大阪・関西万博である。万博には国内外から多くの来場者が訪れ、関西各地の食文化や農林水産物、日本酒、伝統産業に触れていただく貴重な機会となった。しかし重要なのは、その成果をレガシーとして、いかに関西全体の今後の成長につなげていくかである。万博を契機に築かれた海外とのネットワークや商談機会を一過性のものとせず、「KANSAI FOOD」という統一ブランドのもとで関西全体の魅力を世界へ発信していくことが重要ではないか。

農林水産省近畿農政局によると、近畿地域からの農林水産物・食品の輸出額は4,500億円を超え、日本全体の約4分の1を占めており、この高いポテンシャルをさらに伸ばすためにも、関西国際空港や神戸空港を活用した輸出体制の強化や、共同集荷、コールドチェーンの整備など、関西広域連合だからこそ実現できる支援策が求められる。

また、万博のレガシーを次世代へつなぐ取組として、「関西広域連合学校給食の日」を提案したいと思う。例えば、月に一度でも構成府県が連携し、「今日は奈良県の日」「今日は徳島県の日」など、それぞれの郷土料理や特産品を学校給食で提供すれば、子どもたちは食を通じて関西の歴史や文化、産業への理解を深めることができる。

自分の県だけではなく、隣県の魅力にも触れることで、「関西は一つ」という意識を育むことにもつながる。さらに、生産者にとっても販路拡大や地産地消の推進につながり、食育、農業振興、地域振興を同時に実現できる意義深い取組になると考える。

(1) 食の振興や海外展開について

大阪・関西万博で得られた成果を、今後どのように食の振興や海外展開へ生かしていくのか。また、「KANSAI FOOD」ブランドの確立や、関西国際空港・神戸空港を活用した輸出戦略について、関西広域連合として今後どのように取り組んでいくのか、所見を伺いたい。

(2) 食育を通じた広域連携について

万博のレガシーを次世代へつなぐ取組として提案する「関西広域連合学校給食の日」のような食育を通じた広域連携について、関西広域連合としてどのような取組を進めていくのか、所見を伺いたい。

(答弁要旨)

○広域農林水産振興担当 委員 (宮崎 泉)

(1) 食の振興や海外展開について

議員御発言のとおり、関西には高品質で魅力的な農林水産物やその加工品が数多く存在しており、昨年開催された大阪・関西万博では、国内外から多くの来場者を迎え、その魅力が存分に紹介されたところ。

万博では、関西広域連合においては、域内の農林水産物や食文化を紹介するイベント「KANSAI IPPIN EXPO」を実施し、参加者の 89%から「よかった」との回答を得るなど、効果的な PR ができたと考えている。

各構成府県市においても、万博を契機に多くの新たなつながりが生まれ、今後ますます深められるものとする。

また、関西広域連合では、関西の食の魅力を海外へ売り出すため、WEB 型マッチング商談会を開催し、食品事業者と輸出商社等との商談機会を提供するとともに、食品輸出セミナーを通じて、海外市場の動向や輸出に必要な情報の提供に取り組んでいるところ。

空港の活用については、農林水産物・加工食品の輸出は、商品の特性や取引条件、輸送コスト等に応じて様々な物流ルートが選択されている中で、関西国際空港は国際物流拠点として重要な役割を担っており、国においても、物流拠点の整備や輸出物流の効率化に向けた取組が進められていると認識している。

今後も、各構成府県市の取組を基本としつつ、関西広域連合では輸出商社等との商談機会の創出や輸出に関する情報提供など、広域で実施することにより高い効果が見込まれる事業に工夫を重ねながら、関西全体で食の海外展開を進めてまいりたい。

(2) 食育を通じた広域連携について

関西広域連合では、児童らに食を通じて他府県の魅力を感じてもらうため、平成 30 年度から域内小学校等への食材提供と出前授業をスタートし、生産現場の方々の御協力を得て、昨年度までに食材提供は延べ 970 校、出前授業は延べ 186 校で実施してきたところ。

昨年度は、議員の地元である徳島県産の阿波尾鶏を大阪府および兵庫県の小学校 23 校に提供し、うち 3 校において徳島県の特産品に関する出前授業を実施した。

同様に京都府の聖護院かぶを滋賀県の子供たちに、和歌山県のみかんを奈良県や兵庫県の子供たちに提供したところ。

こうした取組は、万博を通じて広く認められた関西の食の魅力を次世代に継承することにもつながることから、議員御提案の内容を含め、ブラッシュアップできないか各構成府県市と相談してまいりたい。